

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390400238		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家栄生		
所在地	名古屋市西区名西1丁目17番22号		
自己評価作成日	令和4年11月28日	評価結果市町村受理日	令和5年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2390400238-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和4年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の尊厳を尊重し、利用者様の立場になって安全且つ安心して生活できる場となるように、毎日を楽しく笑顔溢れるように努め寄り添えるケアを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った町工場や住宅が点在する中に2階建ての事業所があり、1階は地域密着型の小規模多機能事業所、2階にグループホームがある。事業所の玄関横には氏神様の小さな社があり、町内の守り神として地域の人たちが大切にお世話をしたり、入居者も散歩がてら手を合わせる場ともなっている。小規模多機能事業所が併設されていることもあり地域との繋がりは深く、地域行事に小規模多機能事業所の利用者と共に参加したり、毎月行われるオープンカフェで地域の方との触れ合いなどで交流を深めているが、今年度も新型コロナウイルス禍により、地域行事の中止や外出の規制、面会の制限、ボランティア訪問なども自粛している。楽しい食レクに力を入れたり、日々のアクティビティに笑いを取り入れるよう努め、毎日を楽しく笑顔で過ごせるように暮らしの工夫に心がけている。日々の散歩やドライブでの季節の花見や名所巡りなどで、心の安らぎを得るようにしている。居心地の良い落ち着いた雰囲気の間で入居者は、ソファでくつろいだりテレビや新聞を見たり、談笑したりしてのんびり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様本意のサービスの提供をしています。	企業理念や行動指針、事業所独自の目標をラミネートし、誰でも見られるように玄関に掲げている。職員は「ほろみ手帳」を携帯し確認している。入社時には業務の中でOJTの「やって見せる」「説明する」「やらせてみる」「確認・追加指導」を基本としチェックをし実践している。毎日の申し送り時や毎月の会議などで理念を確認し、日々のケアの中で振り返りしながら実践と共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが収まらずなかなか地域の方とは会えません。近所への散歩、短い時間での面会が始まりました。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。今年もコロナ禍により地域の行事の多くが中止になり、併設する小規模多機能事業所のオープンカフェの開催も状況の確認をしている。地域への散歩ができるようになり感染予防をしながら出掛けしている。行き交う方と久しぶりに挨拶を交わしたりお社の掃除やお世話をするなどして地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、町内会長、近隣の人々の力をお借りして交流を持てるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催にて実績行事報告をして相談を受けながらサービス向上に努めている	現在はコロナ禍により2か月に1回書面開催をしている。事業所の運営状況や活動報告と参加者から意見や要望を聞き、その場で話し合ったり、職員間で協議したりして運営に反映させている。議事録は家族、民生委員、地域代表、いきいき支援センターに届けている。議事録は玄関にファイルし誰でも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政への認定書類などを提出、相談など電話など利用し指示を仰いでいる。	コロナ禍において電話やFAXやメールでの情報交換をしている。認定書類や申請書類を提出したり必要に応じて電話や窓口を訪れて事業所の実情やサービスの取り組みを伝えたりして協力関係を築くよう努めている。また、エリアマネージャーと管理者が包括支援センターに出向き情報交換をしながら関係を深めている。研修の紹介があれば積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受け、何が拘束になるか情報共有している。	会社のマニュアルを基に年1回研修会を行っている。参加できなかった職員は、資料のDVDを利用して研修し、拘束についての視点や内容を理解し、拘束が疑われる行為が無いよう確認している。職員は、日々のケアの中で身体拘束やスピーチロックをしないことを認識し、お互いに注意し合う関係性が保たれるよう努めている。また、事例に基づいて起こった原因を探り、不適切な対応を防ぐための話し合いをして理解を深め実践に繋げるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修を受けミーティングで意見交換し職員同士のコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学びながら必要な時は支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に理解していただけるよう、わかりやすく説明に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様に向けアンケート実施している。アンケート結果を運営に反映させている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聴いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録し、情報は職員間で共有し運営に反映させている。家族の面会は新型コロナウイルスの感染状況により多少の変更はあるが、現在は居室で面会をしている。家族からは面会時や電話、手紙等で意見や要望を聞いている。毎月、ブログを更新して家族に施設の様子を知らせている。意見箱を玄関に設置している。	コロナ禍により家族の面会や行事の参加が難しい状況が続く中、家族も不安に思っている事を察し、ブログを見られない家族にも安心できるような工夫を期待したい。また、入居者の日々の暮らしの様子やホームパーティやお茶会、誕生会などの写真と具体的なコメントを添えた「ホーム便り」の再開も望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケート実施、直接対話しています。	職員の意見や要望は、日ごろの業務の中で管理者に直接話している。毎月のミーティング等でも意見を出し合い、業務の改善や運営に役立っている。管理者は会社が実施する職員アンケート結果から指導を受けた事項や意見や要望を把握して業務に反映させている。年2回の個人面談や人事考課の「誰伸び制度」を通して、職員の良いところを見出す加点主義と一人ひとりを温かく見つめる絶対評価から、職員の可能性を信じ、職員が向上心が持てるよう職場環境を整えるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員自身で評価しスキルアップをする制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自身で年間計画をたて研修を受けスキルアップを個々目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修、組合への参加など勉強会に参加出来るよう情報を回覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の言葉、しぐさなど傾聴し安心して頂く		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安、疑問に対し真摯にお答えする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じた支援サービスを提供し今何が必要か見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様本意のサービスの提供が出来るよう支援提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様と家族様の橋渡しをし安心して頂けるサポートを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクなどでお手玉、カルタ、紙芝居など取り入れる。	入居者の今までの生活歴や馴染みの人や場所を把握し、本人や家族からの情報も加え、思い出の場所や事柄などが継続できる支援に努めている。コロナ禍で小学校の運動会や神社のお祭りの参加は自粛しているが、併設の事業所のカフェが再開し状況を確認しながら支援している。日々の暮らしの中で、昔のお手玉遊びや昭和の映像を懐かしんだり、ドリフターズのDVD見たりして会話が弾むよう努めている。絵手紙や趣味の塗り絵、日常の家事仕事などを通して今まで培ってきた経験を日常に活かしている。清洲城や名城公園のお花見にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の気持ちを汲み取り職員がクッションになるよう支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談窓口としていつでも寄り添えるように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本意で検討寄り添えるよう努める。	日常の入居者とのさりげない会話や表情などをケアの中から感じ取ったり入浴時や食後、就寝前の気持ちのゆったりしている時間などに入居者に寄り添って思いや意向の把握に努めている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族や知人から話を聞いたりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様にやご本人様から情報を集める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今の状態を維持する事につとめる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く生活できるよう関係者の方々と相談話し合い寄り添える支援を行う	日々の申し送りや毎月のカンファレンスで情報の収集と課題の進捗状況を確認している。6か月ごとに計画作成者がモニタリングを行い、同時に介護計画の見直しを行っている。全職員で目標を共有し、計画に沿って実施することに努め、本人や家族の意向や希望を聞いたり必要に応じて医師や看護師の意見も取り入れて現状に即した介護計画を作成している。状態の変化に伴い、随時の見直しもやっている。入居者の日々の変化に対応できるよう小人数ずつのモニタリングを課題としている。	入居者の心身の状況の変化に応じて、毎月のケアに関する情報交換の機会に少人数ずつのモニタリングや入居者の担当を決めるなどして、入居者の必要とする支援やニーズに応じたサービスの提供を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員、介護計画を把握し計画に沿って支援、情報を共有し次の計画作成に反映させる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた支援サービスを提供し今何が必要か見極めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め安心安全そして楽しい生活ができるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に往診して頂き、家族様の意向があれば紹介状を書いて頂き医療期間を受診して頂く	今までのかかりつけ医の継続か提携医かの希望を聞いている。現在は全員提携医に変更している。内科は月2回の往診に看護師が同行し入居者の状態を把握している。歯科は家族の希望を重視し、往診回数を決めている。眼科や皮膚科は提携医の紹介により往診で対応している。週1回訪問看護師により入居者の健康管理を行っている。他の専門医受診は家族の協力を得ながら通院し、受診結果は申し送り等で共有している。24時間体制で医師や看護師、関係医療機関の連携により速やかで適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護実施。主治医との連携しっかり取れ素早い対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護サマリーの提供、面会にてなるべく早期に退院受け入れできるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化、終末期における説明をさせて頂いている。職員は年に1回看取りの研修を受け、看護師、主治医と連携をとり支援していく	入居時に、重度化した場合や終末期についての方針を明らかにし、事業所のできる事を詳しく説明して家族の同意を得ている。重度化する可能性や状況が変化した時は早めに入居者や家族、医師や看護師、職員等で話し合い、希望を再確認している。看取りの方針が決まれば、計画の見直しを行い、提携医の看護師と訪問看護師が連携し、職員と共にチームで支援できる態勢を整えている。看取りの経験や実績もある中で看取り後のエンゼルケアの勉強会や職員のメンタルケアなども含め看取りの研修に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、初期対応研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画をたて、防災避難訓練を行っている。	年2回併設の事業所と合同で火災や水害など様々な災害を想定した避難訓練を昼間、夜間の職員体制で実施している。入居者の安全を第一にした避難誘導や、避難経路の確認、消火訓練などを実施している。問題点や課題は職員で話し合い改善に努めている。備蓄品は、水と食料など3日分と簡易トイレ等を確保し本部でリスト管理している。保管場所は職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、プライバシーに配慮している	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。入居者に寄り添い、心を込めて会話をしたり誰が聞いても不快にならない言葉かけや対応に心がけている。呼び名は「さん付け」に統一し失礼のないよう配慮している。職員は、接遇やマナーの研修をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように支援を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを乱さぬように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	らしい身だしなみ、身繕いができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に喜びに感じられるように好物を聞きとり提供できるように努める	献立や食材は業者の委託であるが、調理は事業所で毎食手作りをしている。調理のアレンジや味付けなど入居者の好みに合わせ変更することもある。食事の準備や後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒に手際よく行っている。月1回のお弁当の日や牛丼や寿司の出前、バイクキングなど思考を凝らした食事を提供している。併設の事業所と合同の誕生会では、その方の好きなメニューやケーキでお祝いしている。職員も同じ食事を摂り、味付けや硬さなどのチェックをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせた食事バランスの保った提供を心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持に気を配り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとり状況に応じたリズムで声掛けをしている	排泄記録を参考に、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導を行っている。リハビリパンツや尿取りパッド等は個々に応じたものを使用し、自立に向けた支援とできる限りトイレで排泄に取り組んでいる。夜間も尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄記録、申し送りで確認しコントロールさせて頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿って声掛け、入浴を楽しんで頂くように努めている	入浴は週2回、午前中を目安に支援をしている。お湯や足拭マットは衛生面を考慮して毎回取替え、好みの温度で入浴できる環境を整えている。季節のゆず湯やしょうぶ湯などで入浴を楽しんだり、一人ひとり希望の入浴剤を利用して香りやお湯の色で気分を変えたりしながら入浴支援をしている。入浴を拒む方には、声かけやタイミングを見計らいながら気分転換を図り、気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて安心して眠って頂けるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬効能を把握して適切な支援ができるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や暮らし方を考え楽しんで気分転換できるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の状況に合わせて安心して外出できるように支援している	コロナ禍の影響を受け外出支援は状況に合わせてながら支援をしている。お天気の良い日には体調にあわせて散歩に出掛けたりプランターの花や野菜の水やりをするなど外気に触れる機会を大切に支援に努めている。外食や買い物などの支援は自粛しているが、ドライブしたり季節の花見に出掛けるなどその時々に合わせて支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に沿えるような買い物支援ができるように努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時に応じ電話や手紙を利用して頂くよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地よいスペースとなるよう工夫していく	2階にグループホームがあり、居間と食堂はワンフロアで天井は高く、大きな窓からの採光を活かし、明るく風通しのよい開放感のある生活空間となっている。キッチンから入居者の様子や気配が一目でわかるような机の配置にしている。室内の乾燥や感染症予防対策のため大型の加湿器や空気清浄機が設置されている。手作り作品を壁面にさりげなく飾り、居心地の良い落ち着いた雰囲気の中で、入居者はソファでくつろいだり、テレビや新聞を見たり、談笑したりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の居住空間を作れるように支援させて頂く		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを配置して安心して頂けるように努める	居室には介護用ベットやエアコンが備え付けられ、使い慣れた筆筒やテレビなど自宅で使用していたものを持ち込み安心できる環境づくりをしている。愛着のある手作り作品や家族の写真を飾ったり、位牌を置いて手を合わせるなど自分らしく落ち着いて過ごせる居心地のよい部屋作りに努めている。整理整頓された居室の空気の入替えや清掃をして清潔を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なもの障害を妨げて安心安全な空間を作っていけるように心がける		